

総合型地域スポーツクラブ指導実習Ⅰの授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田 隆

1-1 授業の概観

本授業は、1年前・後期に集中講義形式で開講する科目であり、スポーツ健康科学課程の必修科目である。また、保健体育専修の学生も選択科目として受講し、受講学生数は、33名であった。

1-2 授業の目的

本授業では、総合型スポーツクラブにおける各スポーツ教室に参加し、運動指導教室開催に向けてのプロセスを学び、その運営方法などについて観察し、理解する。また、体力の改善を図るための運動プログラム作成に必要な基礎的事柄に対する理解を深める。さらに運動プログラムを実践するにあたっての基礎的知識を学ぶ。

1-3 授業の到達目標

1) (知識・思考)

運動指導教室の企画・立案、運営の仕方を説明することができる。運動プログラム作成にあたっての基礎的知識を説明することができる。

2) (技能・表現)

各スポーツ教室実施の準備ができる。安全な実技指導ができる。

3) (意欲・関心・態度)

参加者の意欲・関心を高めることができる。他の教室運営と比較することができる。スポーツの未熟練者に適切な指導ができる

1-4 授業の概要

本実習では、観察を通して運動指導教室の企画・立案、運営の方法について実習を通じて学んでいく。また指導対象者への対応や運動指導プログラムの作成の仕方について説明を行う。

2 授業評価法

授業の評価は、中間と最終回に実習の活動報告会を実施し、このときのディスカッションにおいてでた意見から分析を行った。また、活動報告書に、随時感想の記入をもとめた。最終回にアンケートを行い授業評価の基礎資料とした。

3 授業時間外学習

本実習では、次の実習で行う計画の作成や用具等の準備が必要であり、授業時間外にこの作業を

行う必要がある。また、各担当スポーツ教室の運営報告書(問題点・改善点を含む)を作成し、発表・検討会を行っている。さらに他のスポーツ教室を視察し、この報告書(A4一枚)の作成も授業の中に取り入れている。このような視察や報告書の作成は、全て授業時間外に行われることになる。報告書の発表会の後に、新たな実習計画が作成され、スポーツ教室にて実践されることになる。

4 授業評価結果

(1) 活動報告の結果から、学生にとっても、大学に入ってから初めての实習であるために、とまどいが多く見られた。そこで、前半部分では、観察実習的な要素を強調して実施した。事前指導として基本的な指導ポイントの解説を行ったが、対象者の年齢幅が大きいため、指導における時間が不足した状態で始めざるを得なかった。

(2) 各自の活動している活動報告の結果、それぞれの教室の問題点や優れているポイントを具体的に分析できていた。

(3) 他教室の視察に関する報告においては、担当を指定しなかったために、特定の教室に固まってしまう点については、来年度以降の課題としたい。報告書の内用としては、各自の所属する教室との比較検討が適切になされ、今後の教室運営に大きく貢献できるものと思われる。しかし、即時的な問題解決を必要とされるものや、対応が可能な課題に対して、積み残しになってしまうケースも多く見られた。

(4) 到達目標に対しての評価は、知識・思考、技能・表現について、満足できる成果を得られたと思える。

(5) 成績の評価は、全学生をまとめて行う、教室での講義・報告会・レポートによるものと、各教室での活動状況の合計点によって行った。

(6) 問題点として、各教室運営が独立しているため、実施時間・曜日・開講回数に大きな差があり、この条件の差に対して受講学生間に不満があることが明らかとなった。